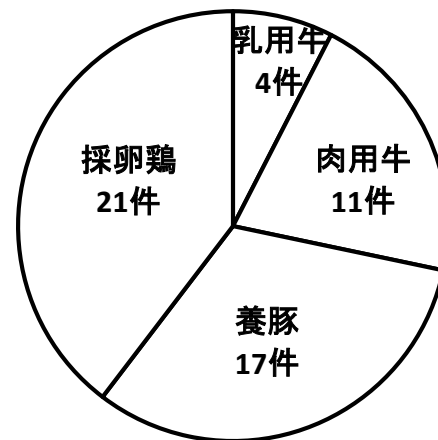


令和元年JGAP認証取得経営体へのアンケート調査①

- 調査時期
令和元年4月～5月
- 調査対象者
JGAP認証取得経営体(84経営体)
- 調査方法
農林水産省が(一財)日本GAP協会を通じて、調査表の送信により調査(回答53経営体;回答率63%)



GAPに取り組んだ理由・きっかけ(上位5位)

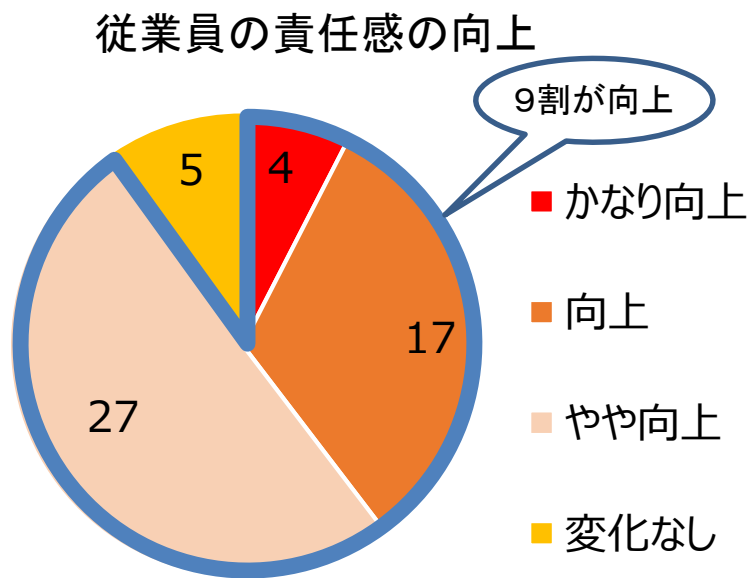
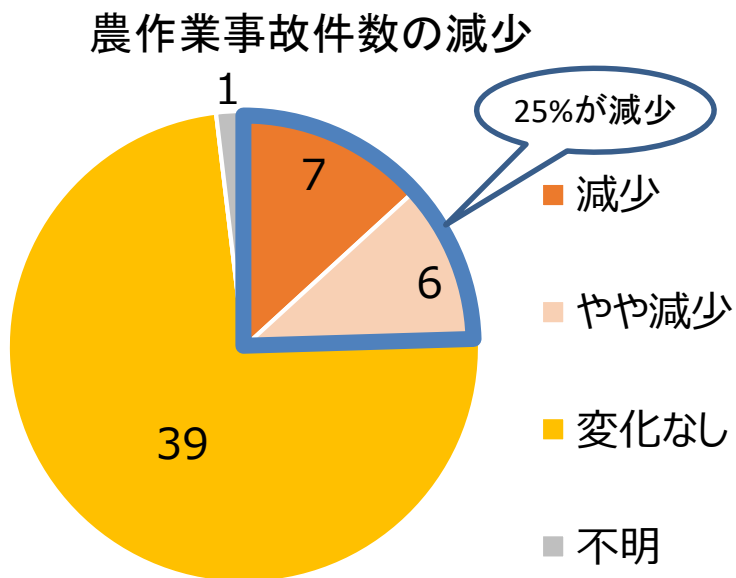
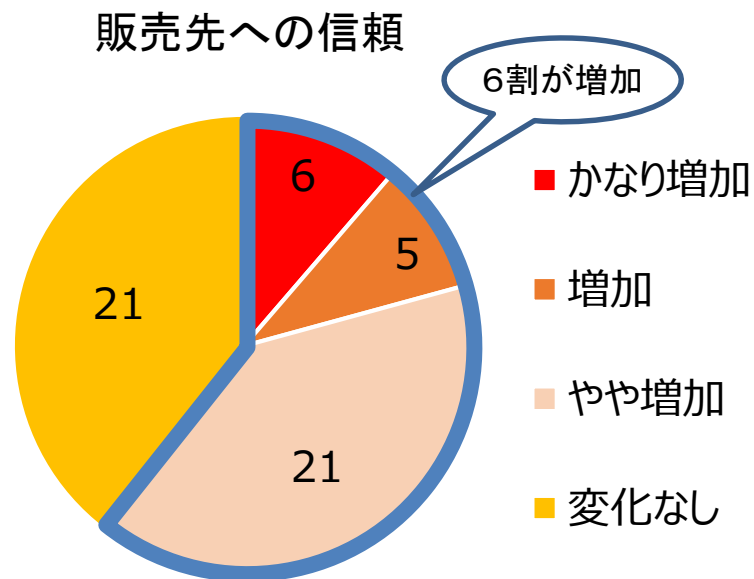
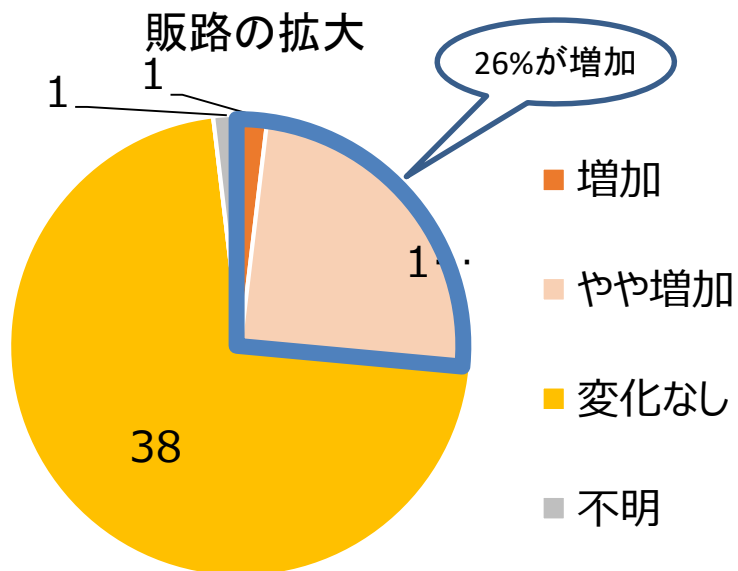
1	食品安全面の強化
1	家畜衛生面の強化
3	快適に勤務できる体制づくり
4	持続可能な畜産の取組を企業理念に
5	労働安全面の強化
5	販路の拡大

GAPに取り組んだ結果・効果(上位5位)

1	労働安全面の強化
2	家畜衛生面の強化
3	快適に勤務できる体制づくり
3	整理・整頓、無駄を排除
5	環境保全面の強化

取り組んだ理由・きっかけと、取り組んだ結果・効果には大きな違いが確認された。
特に、労働安全面の強化については、約9割で効果があったとの回答があった。

令和元年JGAP認証取得経営体へのアンケート調査②



令和元年JGAP認証取得経営体へのアンケート調査③

海外や大手企業への
信頼が向上した
(肉用牛)

農作業事故が減少した
(養豚)

従業員管理が改善できた
(乳用牛)

不良在庫が削減できた
(乳用牛)

販路の拡大、出荷量・
上物率の向上がみられた
(養豚)

認証取得から間もないため、
効果が出るのはこれからだと思う
(肉用牛)

海外でアピール出来た
(採卵鶏)

日頃からの整理整頓、安全管理、
衛生対策などに、職員の意識改善
効果が現れてきた
(肉用牛)

文書化による
事務作業が増加した
(肉用牛・養豚)

畜産GAPについては、基準が出来て間もないため、今後、継続的なGAPの取組を通じて、
農業経営の改善や持続可能性の確保などの成果が出てくる可能性